



居合道だより

平成26年10月号 一第99号一



はじめに

はじめに

庭の柿が日増しに色濃くなり始めた今日この頃、稽古には最も適した気候になった。

先月の大相撲9月場所では、やはりモンゴル勢が中心だったが、なんと言っても衝撃的だったのが、入門5場所目でまだ鬣も結えないザンバラ髪 of 怪物、逸ノ城の驚愕的な大活躍だった。

終盤は2大関、1横綱を連破、あわや100年振りの新入幕優勝かと思わせる有様だった。

モンゴル遊牧民出身だそうだが、成吉思汗を彷彿させる面構えと驚異的な肉体のパワー、まさにモンスターだ。

最後はさすがに日下開山、白鵬の前に屈したが、このままでは長い歴史の有る大相撲の秩序さえ崩壊しそうな勢いだった。

敗れた2大関、1横綱と逸ノ城の対戦をテレビ観戦したが、仕切りの様子を見ていて、場内の異様な雰囲気とともに、対戦両者の心の内まで透けて見えてくるように感じた。

かたや協会を代表する看板力士、絶対に負けられない、勝たねばならないという思いで萎縮してしまっているのに対して、逸ノ城のほうは、あわよくば食ってやろうというふてぶてしさに満ちていた。なんと天下の横綱に対して立ち会いの変化で勝ったのである。

なんという大胆不敵、集中力そして勝利への執念か。本場所前の稽古場では大関、横綱には全く手も足も出なかったというではないか。

勝負においては、いかに心の持ち様が大事であるかということ、まざまざと見せつけられ衝撃だった。

その時に脳裏に浮かんだのが、『雄姿端然として四辺を圧し、、、』であった。

大分出身で居合道八段、剣道範士九段の故近藤知善先生の漢詩『静中動』である。

6行からなる漢詩は居合道の「座位」「心位」「抜付」「斬下」「残心」「納刀」を表している。

雄姿端然圧四辺

心気清徹如明鏡

紫電一閃払妖雲

高嶽鳴動碎巨巖

刃風一過尚余韻

靈刀尽妙還腰間



主な出来事

9月6日(土) ～7日(日)	居合道中央講習会	京都武道センター
9月15日(日)	福岡県居合道審査会 國方先生八段祝賀会	福岡武道館 チャイナガーデン
9月21日(日)	居合道伝達講習会	アクション福岡



10・11月の予定

10月25日(土)	第49回全日本居合道大会	福島市
11月8日(土)	居合道教士称号筆記試験	福岡市
11月8日(土)	居合道6・7段審査会	東京都
11月30日(日)	居合道稽古会、級審査会	福岡武道館



その他

平成26年度居合道初心者体験教室がその後、若松居合道同好会1名、福岡武道館2名の参加を得て合計15名で始まっています。受講生の皆様頑張って下さい。